

生徒指導に関する講演会 演題「『いじめ問題』を根本から問う」

生徒指導コンサルタント 吉田 順 氏



【吉田 順 先生のご紹介】

吉田先生は37年間横浜市内の公立小中学校に勤務の間に、担任32年、生徒指導部長16年、学年主任13年を兼任されました。平成23年3月に定年退職され、現在、生徒指導コンサルタントとして、全国の「荒れる学校」と関わりながら、「非行・問題行動」、「荒れる学校」、「学年・学級経営」などをテーマに講演、教育相談、著述など多方面で御活躍です。

主な著書は、

「誰でも成功する中学生の叱り方のキーポイント」

「誰でも成功する学級担任のための中学生の指導」

「荒れには必ずルールがある～間違った生徒指導が荒れる学校をつくる～」

「新版 生徒指導24の鉄則」

など

11月20日（火）ライフパーク倉敷 大ホールで「『いじめ問題』を根本から問う」と題し、「生徒指導に関する講演会」を開催しました。会場には倉敷市内の教職員等136人の方々が集まりました。現代の子どもたちが抱える様々な問題について、時間を忘れるほどエネルギーに語っていただきました。

過去の児童生徒を取り巻く数々の不幸な事案に対し、『学校でいじめがあったのか、なかったのか。』という「いじめ問題」としてマスコミが取り上げることで、教育行政、学校側もその判断を迫られ、日常学校現場で起こる様々な事案に対しても、「いじめか否か」の判断を強いられている。本人以外の者が、正しく判定することは難しく、このことが「いじめ問題の混乱」につながっており、なかなかこの問題の解決につながっていない。我々教師には、「いじめかどうかの篩（判断）」は必要ではなく、生徒の全ての訴えを見逃さず、トラブルに対応できる「生徒指導の力」をつけることが大切である。』と述べられていました。倉敷市の教育関係者に大いに期待とエールを送ってくださった講演会でした。

《参加された方の感想》

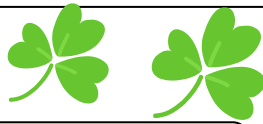
・「いじめ問題」の話でしたが、生徒指導の考え方を根本から見直し、考え直すことができ、非常にありがたい話を聞くことができました。いじめの認知と判断の違いをずっと疑問に思っていました。誰が「いじめ」と判断するのかについても明確な回答を得られず、本を読んだり、人に聞いたりしてきましたが、今日、その答えを自分なりに見出すことができました。原点に立ち返って日頃の生徒指導のあり方を足元から見直す必要性を感じました。

・校内で起きた全ての事例に対して、個人的な判断をすることなく、全てに対応すべきことが大切だとおっしゃっていた点で、確かに誰かが「これはいじめだ。」「これは大したことはない。」「一方的ではない…。」「ただのトラブルでしょ。」など価値観をもち込んでいることがほとんどであると再認識させられました。どのようなものであれ、苦痛を感じている生徒がいることにしっかりと向き合って、一人ひとりの生活を取り戻すための対応や指導がこれから求められてくると思います。

・いじめの起こりにくい学級づくりに強く共感しました。日々トラブルが起き、子どもはトラブルで育つという中に「いじめ問題」がクローズアップされてきていますが、つまりはアンテナを張り、トラブルを見逃さず、しっかりと指導していかないといけないと思いました。そして、そのトラブルによって子どもが学ぶことができる指導を意識していきたいと思いました。

・「社会に必要とされている」という基本的欲求を満たされない限り、いじめはなくなりません。そのいじめを定義づけられないし、いじめかどうか判断することも必要ないということがよく分かりました。その意味で、いじめ未然防止という観点で「学級経営」とか「人間関係づくり」という指導力を身に付けることが必要であると改めて感じました。





3年目研修（小中連携体験研修）

3年研では、小学校・中学校で連携体験研修を行いました。異校種へ半日行かせていただき、発達段階の異なる子どもたちの様子や先生方の取組等を知ることによって小中のつながりを再確認する研修となりました。

（研修報告書から）

中学校では、小学校で積み上げてきたものが生かされ、つながっている場面がたくさん見られました。中学校の先生からは「小学校での学びや経験が、中学校生活の基となっている。」と言っていたとき、小中の接続を意識した指導の必要性を改めて気付かされました。特に中学生になると、自分で考えて行動する主体性が求められます。小学校の段階でどんな力を身に付けておくべきかを考えて、日々の指導や声掛けをしていきたいです。（小学校教諭）

初任者研修の時とは違った視点で、小中連携について考えることができました。児童が掃除や給食、帰りの会などを自主的に行う姿が印象的でした。中学校に入学してきた生徒たちが互いを認め合い、何事も真剣に取り組むのは、小学校の先生方がきめ細やかな指導を積み重ねた成果だと実感しました。小学校の取組を引き継ぐだけでなく、中学校でさらに伸ばせるよう努めたいです。小中連携し、9年間を見通して育てる視点が大切だと思いました。（中学校教諭）

初任者研修（会場校園をお借りして）



初任者研修では、学習指導と評価・道徳と特別活動・幼小中連携・特別支援教育の研修で、毎年会場校園をお借りし、1日その学校園で過ごして研修をさせていただいています。今年度は、万寿東小学校・東中学校・庄小学校・新田中学校・中島幼稚園・天城小学校・倉敷支援学校で研修をさせていただきました。会場校園の研修は、日々の実践に直結する貴重な学びの場となったようです。

（受講者の感想から）

子どもの中で算数の記号とその意味が理解できるように、動作化を何度も丁寧に行うことで、この1時間のめあてがしっかりと達成されていました。表情や言葉掛けなど、先生の立ち居振る舞いがクラス全体の雰囲気をつくっているのを感じました。自分の指導を振り返って見直していきたいです。（小学校学習指導と評価・万寿東小学校）

特に印象に残ったのは、「教師たるもの五者たれ」という言葉です。教師としての姿勢を教えてくださいました。また、子どもが頑張った結果を出した時、褒めることを通じて、頑張ったからできるということに気付かせることが大切だと学びました。生徒との関わり方を見つめ直すことができました。（中学校学習指導と評価・東中学校）



根拠をもって自分の意見を述べたり、友達の考えと比較したり、話し合いをこのまま進めていけるか問いかけたりするなど、よりよいものに近づくような学級会でした。振り返りでは、共感したことや今後の課題が挙がっていて、私もこのような振り返りができるように指導していきたいと思いました。（小学校道徳と特別活動・庄小学校）



道徳は人間関係ができてこそ成り立つと教えていただきました。生徒と担任との関係、生徒同士の関係をつくりながら授業をしていきたいです。やろうと思ってもできていないことが多いので、始める勇気をもって、学んだことを実践していきたいです。（中学校道徳と特別活動・新田中学校）

15年経験者研修

教職経験15年の先生方を対象としての研修を行っています。第1回は、倉敷市教育委員会 松本一郎参事より、「どんなときも大丈夫～ポジティブに自分らしく生きる～」第4回は、国士舘大学 北神正行教授より「学校組織マネジメント」についての講義・演習を行いました。改めて教職のプロとしての自分のあり方や考え方について見直すよい機会となりました。

（受講者の感想から）

ポジティブな考えや声掛け、前向きな対応こそ、人を変える手段なのだと思います。明日からの学級経営や授業、部活にも生かせる内容でした。もっともっと教師がポジティブになると、よい雰囲気をつくり出せることを痛感しました。

子どもたちに「変わる」ということをよく伝えていきます。と同時に私自身も変わっていかなくてはいけないと感じました。年齢や経験を重ねていくと、求められるものも積み重なっていくのだと思います。特に組織を変えることには、勇気も労力も必要になってきます。その一歩を踏み出すような人になりたいと感じました。子どものために、学校のために、自分のために歩みを止めず、変わり続けていきたいと思っています。



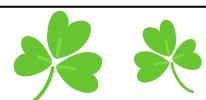
「啐啄同時」のお話から、ちょうどよいタイミングで、その場にあった支援をすることが大切であると学びました。子どもの実態を把握して状況を見極める力や、臨機応変に対応できる力を身に付けていきたいです。

（特別支援教育・倉敷支援学校）

活動に至るまでの流れや掲示物などが全て関連していて、活動に対する子どもの意欲が高まっているのを感じました。先生方の努力の積み重なりを知り、やはり授業においても教材研究が大切だということを考えさせられました。

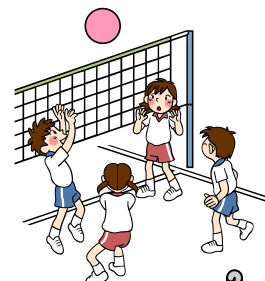
（幼小連携・中島幼稚園）

児童が個々に考える時間を十分に確保していました。「生徒が理解できるまで」という基本姿勢をもう一度見直さなければいけないと思いました。積極的に小学校の授業公開に出掛けていくなど、中学校だけでなく、保・幼・小・地域と一緒に子どもを育てているという意識をもち続けていきたいです。（小中連携・天城小学校）





倉敷ふれあい教室の行事 ～ 5 教室 合同 の 体 験 活 動 ～



倉敷ふれあい教室では、5教室合同で体験活動を行っています。

今年は、西日本豪雨災害のために、7月のふれあい宿泊研修が中止、9月のソフトバレーボール大会も延期となりました。中には被災した子どももいて、心配しましたが、その後みんな元気に登室しています。

このまま、何もかも中止してしまえば、せっかくのふれあう機会が失われるので、ふれあいソフトバレーボール大会は10月10日に延期して行いました。

子どもたちは、一つのボールをつないでいく中で、教室の仲間と協力することの大切さや、やり遂げた喜びを感じ頑張ることができました。また、他の教室の仲間とふれあって人間関係を広げる等の成長した姿を見ることができて、大変うれしかったです。

そして、12月には、昨年度まで合同で開催していた「ふれあい文化祭」を各教室で行いました。各教室で工夫して考えた作品展示や出し物など、アイデアあふれる文化祭でした。

10月

ふれあいソフトバレーボール大会
(ライフパーク倉敷 大ホール)

- ・みんなで協力して、やっと勝つことができたので、楽しかったです。(参加生徒の感想より)
- ・家で様子から心配していたところもありましたが、笑顔で頑張る姿を見ることができて安心しました。(参加保護者の感想より)



今年度は各教室での開催になりました。それぞれの教室で工夫があり、子どもたちが役割を果たしながら活躍する姿が見られました。

12月

ふれあい文化祭

倉敷



倉敷教室では、お茶席、クイズコーナー、創作コーナーの3部門に担当を分け、それぞれおもてなしを行いました。生き生きとした活動の様子を伝える新聞や、ユニークな作品も展示しました。

水島



水島教室では、保護者の方や学校の先生たちも参加できるパフォーマンスアートを行いました。参加者全員が一緒に花や葉っぱを色付けして、子どもたちのメッセージの周りに貼り付け完成させました。

児島



児島教室では、バレーボールの後、ギョーザの皮を使ったピザを全員でトッピングして焼きました。そして、それを食べながら、俳句、怪談、ジャズの演奏を楽しみました。とてもおいしく、心地よい時間でした。

玉島



玉島教室では、歌とダンス、そしてトーンチャイムを演奏しました。緊張の中、気持ちを一つにして発表しました。その後保護者の方や学校の先生も一緒になって、「ディスコン」をして楽しみました。

真備



真備教室では、保護者の方や先生方にふれあい真備教室の日常を体験してもらいました。朝の会で自己紹介をし、バラバラワードゲーム、そして卓球トーナメント大会で盛り上がり、思い出に残る時間になりました。

アンケートの感想より

- ・それぞれの持ち場で、コミュニケーションを取りながら説明するなど、成長した姿を見ることができました。
- ・参観するだけでなく、いろいろ体験することができて、ふれあい教室の様子がよく分かりました。
- ・人前で勇気を出して話す姿に感動しました。今日の勇気をまた明日からの勇気につなげていってほしいです。

倉敷ふれあい教室めぐり

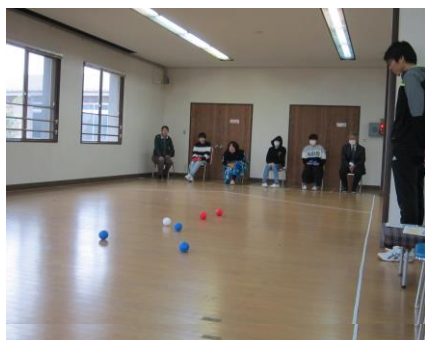
☆ 豊かな自然と歴史に囲まれて

☆☆ 玉島教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室玉島教室は、旧玉島児童館にあります。周辺には、良寛さんゆかりの円通寺や玉島港があり、自然に恵まれ、ゆったりした空間で、のびのびと活動しています。

現在教室には、中学校2年生と3年生の8名が在籍していて、3名の指導員とアットホームな雰囲気の中で活動しています。フリータイムには、みんなでカードゲームをしたり、ソフトバレーボールや卓球をしたりして楽しんでいます。

1日の活動としては、みんなと一緒に取り組む「なかよし」活動が午前中に、一人ひとりの進度にあわせた「スタディ」が午前と午後にあります。



「ニュースポーツ」

「なかよし」では、創作活動、スポーツ（今年はニュースポーツにもチャレンジ）、調理実習など様々な体験に取り組んでいます。また、定期的にボランティアの方々から、季節のお花の生け方やお茶のたて方を学んだり、合唱やトーンチャイムを使っの音楽を楽しんだりしています。

10月に行われたふれあいソフトバレーボール大会では、全試合に勝つことができ、子どもたちは、ひとまわり大きく成長することができました。

日々の活動の中で、多くの方とふれあい、いろいろなことにチャレンジし、やり遂げた後の「やればできるんだ。」という達成感を積み重ねていくことを大切にしています。



「お茶のたて方」

☆☆ 倉敷教室 ☆☆

☆ 恵まれた教育環境の中でのびのびと・・・

倉敷ふれあい教室倉敷教室は、くらしきシティプラザ西ビルの8階にあります。窓からは倉敷市内が一望できます。倉敷駅に隣接しており、交通の便のとても良い場所です。

周辺には、みらい公園、美観地区、倉敷美術館、自然史博物館、北児童センターなど多くの文化施設や教育施設があり、恵まれた環境の中で様々な活動に取り組んでいます。

「なかよし活動」ではペーパークラフトや手芸などの創作活動、書道や英会話などの学習活動、その他にもスポーツやお茶、映画鑑賞なども行っています。



「書道教室」



「ボランティア活動・ごみひろい」

地域に出かける活動としては、春と秋に行く遠足、倉敷幼稚園での交流会、倉敷公民館での調理実習、倉敷中央図書館での読書、阿智神社の年中行事への参加などがあります。また、ボランティア活動として地域のゴミ拾いも行っています。「スタディ」の時間は机に向かい、それぞれ自分に合った学習内容に一生懸命取り組んでいます。

倉敷教室の今年度の目標である「前進」をキーワードに、一人ひとり苦しい事にも勇気をもってチャレンジしています。「やってみたらできた。」という達成感や「やればできるんだ。」という自信をもつことができるよう、日々いろいろな活動に取り組んでいます。